



ゆきとどいた教育を子どもたちに 教育予算増やし負担軽減を

「ゆきとどいた教育を求める全国署名」4万7037人分を提出する大西代表世話人（右）11月8日、高知市



署名4万7000人

子どもたちに 向き合える 教育ぜひ

(しんぶん赤旗 12月10日付より)

高知県議会に提出

「子どもと教育を守る高知県連絡会」は8日、全ての子どもたちにゆきとどいた教育を保障し、お金の心配なく学べる社会の実現を

求める「ゆきとどいた教育を求める全国署名」4万7037人分を、県議会の梶原大介副議長に提出しました。

大西朋枝代表世話人は教員不足で学級担任がしばらく不在になる「先生のいない教室」などの課題をあげ、「一人ひとりに向き合える教育へと改善してほしい」と訴えました。

県教組の石川真人委員長は教職員の長時間労働などの実態を指摘し、「ゆきとどいた教育には教職員の定数改善の議論をしてほしい」と話しました。

梶原副議長は「子どもたちにゆきとどいた教育をとの思いは同じです。少しでも進めていけるようにしていきたい」とのべました。

署名の提出後、全会派を訪ね、請願への紹介議員の協力を求めました。

米戦闘機土佐湾に墜落 訓練空域撤去せよ！

●12月7日午後6時45分、土佐湾に岩国基地所属の米軍機F18 ホーネットが墜落。高知県平和委員会和田忠明事務局長が県知事あての原因究明と訓練中止、空母艦載機の岩国移転と訓練空域拡大の中止を求める要望書を、酒井浩一県危機管理部長に提出、私も同席した。

パイロットは死亡。少なくとも原因がわかるまで訓練中止するのが米兵の死を無にせず3回も墜落事故が起きた唯一の県である本県県民の命を守ることであるのに今日も飛んでいる。

